

## コラム

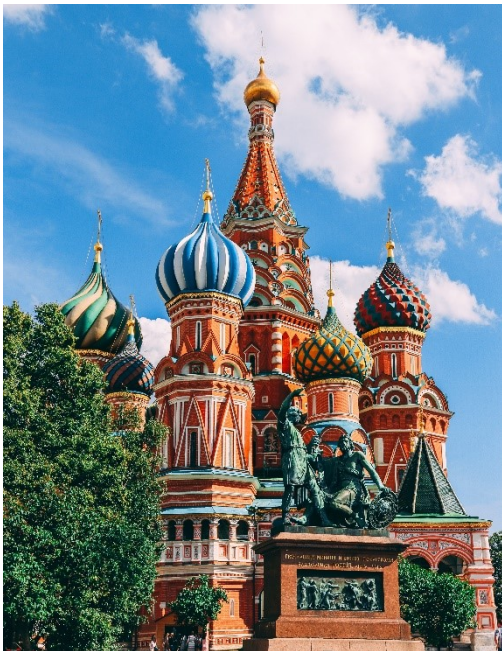
# 「日露間の言葉の奇妙な旅」

株式会社 ASIA Link  
シロコフ マラト  
(校閲：小野朋江)

### はじめに

ロシアは世界で一番大きな面積を持つ国で、周りは様々な国々に囲まれています。西はヨーロッパ、南は中央アジア、東はモンゴルや中国などのような国が横たわります。ロシアは地理的に、半分はヨーロッパ、半分はアジアです。そのため、ロシアの紋象を見ると、鷲が二つの頭を持ち、それぞれが西と東を向いているのがわかります。

昔からロシア人はそれらの国々と交流し、貿易をしていました。また、あちこちから敵も来ました。様々な民族が、ロシアに残ったり、自らの文化や新しい言葉を持ち込んだりしました。



そのため、ロシア語には「借用語」と呼ばれる言葉が多くあります。

簡単な例を挙げると、ロシア語での「ズボン」[Shtany]とはチュルク語から来ており、「茶」[Chai]は中国語から取り入れられたのはよく知られています。

一方、ロシアは、大陸にある国々との関係は自然に発展しましたが、同じように近くにある日本との関係は、海峡のせいでそこまで発展していませんでした。

「江戸幕府の鎖国政策」も影響を与えたのかもしれませんが。

それでも、ロシアと日本の間には時々交流があったため、言語の借り入れも起こっていました。どのような言語が、どんな状況下で取り入れられたのか、いくつか調べてみたいと思います。

## 日本語に取り入れられたロシアの言葉

### 「イクラ」

日本語で最も目に付くロシアの言葉は、イクラ「**ikra**」です。イクラは主にロシア極東地域の海で採られ、日露貿易を通じて、日本へ輸出されていました。その際、ロシアの漁師から日本の漁師へ取り入れられた言葉が、この「イクラ」だそうです。

ロシア語のイクラ「**ikra**」は、魚卵の総称ですが、日本ではイクラとはサケの卵にだけ使います。どうして、日本ではサケの卵だけが「イクラ」と呼ばれるのでしょうか？

下記のロシアの研究者によると、この「イクラ」という言葉は日本の開国後、明治時代にロシア語から借用されました。

「魚卵を意味する日本語は、サケの卵以外なら何でも、タラ（タラコ）でもニシン（数の子）でも、既に存在していた。ところがサケは、それまで日本人は大量には捕獲しなかったので、魚卵を指す言葉がなかった。それで『イクラ』が借用された」。

<https://jp.rbth.com/arts/2017/08/25/828410>

### 「セイウチ」

次の面白い例は、セイウチ「**sivuch**」という言葉です。実は本来、ロシア語のセイウチは「アシカ、トド」・英[sea lion]・露「morskoy lev」または「tyulen」という意味でした。日本語でのセイウチは、英「walrus」・露「morzh」を示し、牙を持ちます。ロシア語のセイウチ「**sivuch**」は、日本語のようにセイウチの意味ではないのです。

では、なぜセイウチの言葉の旅はそんなに奇妙になったのでしょうか？

ロシアの研究者・ポダルコ教授によると、以下のように書かれています。

「長い鎖国のあいだ、日本人は、竜骨をもつ大型外洋船の建造を禁じられていた。それで、トドもセイウチも目にする機会がなかった。有名な大黒屋 光太夫のように、ロシアに漂着したごく少数の船頭、漁師をのぞけば」

<https://jp.rbth.com/arts/2017/08/25/828410>

## ロシア語に取り入れられた日本の言葉

ロシア語に取り入れられた、いくつかの日本の言葉の例も挙げてみましょう。

まだ語源に諸説あるものもありますが、だいたい日本語に語源を持つことが疑いはないと考えられています。

### 「津波・台風」 [Taifun]

夏季に日本からロシア極東へやって来る嵐のこと。「台風」はそのままロシア人もよく使う言葉で、「タイフン」と読みます。

## 「綿」 [Wata]

ロシアにて日常生活でのそのまま「Wata」と言います。怪我をして血が出たら、包帯と膏薬とともに主な薬品としてよく使います。ある研究者は、その言葉がドイツ語の「Watte」から来ていると言っており、今日まで最終的な定説はないそうです。

## 「坊主」 [Bonza] 複数形 [Bonzi]

比喩的な言い方として、鼻を高くする威張りくさった官吏に対して使う言葉です。特にソ連時代の共産党の官僚主義者に対して「Партийные бонзы」・「Partyinyi bonzi」のような批判表現として普及しました。「勢力を持っていながら国民のニーズを気にせず」くらしいの意を表す言葉でした。英語と日本語に直してみると「Party big Bosses」・「党の親分様」等に近い意であるかもしれません。「坊主」はロシア文学でもよく会えます。日本語からロシア語に直接来たのかどうかは諸説あるようですが、日本語とロシア語に共通する言葉であることは事実です。

## ほかの面白い例

### 「鰯」 [Iwasi]

ソ連時代も現在のロシアでも、普及している魚の缶詰めです。ソ連漁業基準とも言っていました。潰したじゃがいもと黒パンと一緒に、簡単なロシア家庭料理として食べていました。

### 「明太」 [Mintai]

「ミンタイ」とは、ロシア語ではスケトウダラのことです。缶詰めよりも生魚として売られており、ロシア料理では揚げ物のように食べます。Wikipediaによると、元々は朝鮮語で、スケトウダラの卵巣を調理したものを「ミョンテ」と呼び、そこから日本の「メンタイ・ミンタイ」が生まれたようです。

面白いのは、日本では「辛子明太子」が流行しましたが、ロシアでは辛くない塩漬けた「明太子の缶詰」が流行っています。



2019年12月作成